

目的 ガードル着用による身体(腹部)への影響を調べ、より良い整容のためにどのようなデザインが適しているかを、ダイヤモンドカットの形を中心に検討した。

方法 裸体時およびダイヤモンドカットの形を変え製作したガードル着用時において、腹部の体型をスライティングゲージにより計測した。又、動作時の被服圧、加速度を、被服圧計、加速度計により測定した。測定箇所はダイヤモンドの頂点と脇の中奥の部位が主である。

結果 タイヤモンドカットの形によって ひきしめの効果が現れ、その形によって整容効果も異なることがわかった。被服圧は、裸体時に 屈伸、立つ→座る→前かがみ→拾うの各動作によって 100 g/cm^2 以上の値がみられるが これは肥満体のため、動作と同時に脂肪が重なり合って このような大きな値になったものと思われる。しかし、ガードル着用によって 10 g/cm^2 前後になり身体が正常に整容されたといえる。加速度については大きな動作の跳躍等で 裸体時に 0.5 g 前後あったものが、ダイヤモンドカットのガードル装着によって 0.1 g くらいに防振されている。ダイヤモンドカットととりつけないガードルを着用した場合には このような減衰効果はみられず ダイヤモンドカットによって 肥満体の腹部整容効果が向上することが明らかである。